

# InstallShield 2022 リリース ノート

オリジナル リリース 2022 年 7 月、R2 を含むアップデート リリース (2022 年 12 月)

|   |           |
|---|-----------|
| はじめに.....   | 2         |
| <b>R2 での変更点.....</b>  | <b>2</b>  |
| InstallShield 2022 R2 における Visual Studio 2022 の統合.....              | 2         |
| <b>2022 R1 の新しい機能.....</b>  | <b>2</b>  |
| MSIX でカスタム宣言をサポート.....  | 2         |
| InstallShield 2022 R1 における Visual Studio 2022 の統合.....              | 3         |
| <b>強化機能.....</b>  | <b>3</b>  |
| InstallShield 2022 R2.....  | 3         |
| InstallShield 2022 R1.....  | 5         |
| <b>重要な情報.....</b>   | <b>5</b>  |
| 同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要.....      | 6         |
| InstallShield の評価.....  | 6         |
| InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する..... | 6         |
| InstallShield の複数エディションをインストールする.....                               | 7         |
| InstallShield の複数バージョンをインストールする.....                                | 7         |
| <b>プロジェクトのアップグレードに関するアラート.....</b>                                  | <b>7</b>  |
| InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報.....            | 8         |
| ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更.....                | 8         |
| 文字列のローカライズに関する考慮.....   | 8         |
| <b>バグ修正.....</b>  | <b>9</b>  |
| InstallShield 2022 R2.....  | 9         |
| InstallShield 2022 R1.....  | 10        |
| <b>システム要件.....</b>  | <b>11</b> |
| InstallShield を実行するシステムの要件.....                                     | 11        |
| ターゲット システムの要件.....  | 13        |
| <b>既知の問題.....</b>   | <b>13</b> |
| <b>法的情報.....</b>  | <b>14</b> |

# はじめに

InstallShield は、ハイクオリティな Windows Installer または InstallScript ベースのインストール、MSIX パッケージ、および Microsoft App-V パッケージをオーサリングできる業界標準ツールです。

InstallShield 2022 では、最新テクノロジーを手軽に使用できる新しい機能、強化機能とバグ修正も提供されています。

## R2 での変更点

InstallShield 2022 R2 には、以下の変更が含まれています:

- [InstallShield 2022 R2 における Visual Studio 2022 の統合](#)

## InstallShield 2022 R2 における Visual Studio 2022 の統合

InstallShield 2022 R2 では Visual Studio 2022 でプロジェクト作成、編集、アップグレードおよびビルドを行うことができます。

Visual Studio 2022 と InstallShield 2022 R2 との統合についての概要は、つぎのとおりです:

- Visual Studio 2022 内で新しい InstallShield プロジェクトを作成することができます。
- プロジェクトを Visual Studio 2022 内で編集することができます。
- プロジェクトを最新版の InstallShield にアップグレードすることができます。
- Visual Studio 2022 IDE および x64 MSBuild からのプロジェクトをビルドすることができます。



**メモ**・ Visual Studio 2022 からの InstallScript プロジェクトのサポートは、InstallShield の将来的なリリースで予定されています。

## 2022 R1 の新しい機能

InstallShield 2022 R1 には、以下の新機能が追加されています:

- [MSIX でカスタム宣言をサポート](#)
- [InstallShield 2022 R1 における Visual Studio 2022 の統合](#)

## MSIX でカスタム宣言をサポート

MSIX プロジェクトにカスタム宣言のサポートが追加されました。

MSIX プロジェクトの [宣言] ビューで、多くの組み込みアプリケーションおよびパッケージ拡張タイプがデフォルトでサポートされています。また、カスタム宣言機能を使って、InstallShield では提供されていない MSIX 拡張機能を定義することもできます。[カスタム宣言] メニューでは、名前空間およ

びコンテンツを指定して必要な拡張タイプを定義できるオプションが提供されています。InstallShield ビルド プロセスは、MSIX マニフェスト ファイルの準備中にこれらのカスタマイズを考慮に入れます。詳細については、InstallShield 製品マニュアルを参照してください。

## InstallShield 2022 R1 における Visual Studio 2022 の統合

InstallShield は Visual Studio 2022 との統合をサポートします。この統合は段階的な提供が予定されています。InstallShield 2022 R1 では Visual Studio 2022 でプロジェクトを開き、アップグレードおよびビルドを行うことができます。

Visual Studio 2022 と InstallShield 2022 R1 との統合についての概要は、つぎのとおりです:

- 既存するプロジェクトを Visual Studio 2022 で開くことができます。
- プロジェクトを最新版の InstallShield にアップグレードすることができます。
- Visual Studio 2022 IDE および x64 MSBuild からのプロジェクトをビルドすることができます。



**メモ**・ Visual Studio 2022 は以前のリリースの 32 ビットとは異なり、64 ビット アプリケーションとしてリリースされているため、段階的な統合が行なわれています。



**メモ**・ InstallScript プロジェクトおよび Visual Studio 2022 から新しい InstallShield プロジェクトを作成できる機能は、InstallShield の将来的なリリースでサポートされます。。

## 強化機能

InstallShield 2022 リリースには、以下の強化機能が含まれています:

- [InstallShield 2022 R2](#)
- [InstallShield 2022 R1](#)

## InstallShield 2022 R2

InstallShield 2022 R2 リリースには、以下の強化機能が含まれています:

- [前提条件エディターの \[Windows パッケージ マネージャー\] タブで追加パラメーターを指定できる機能](#)
- [\[前提条件設定\] ダイアログ ボックスの追加された新しい ARM および ARM64 オプション](#)
- [新規/アップデートされた Setup.exe コマンドライン パラメーター](#)
- [パッシブ モードのインストールをサポートする \[ビルド\] タブの新しい設定](#)

## 前提条件エディターの [Windows パッケージ マネージャー] タブで追加パラメーターを指定できる機能

InstallShield 2022 R2 では、InstallShield 前提条件エディターの [Windows パッケージ マネージャー] タブに、製品の前提条件としてインストールしたい Windows パッケージ マネージャー (WPM) パッケージを指定できる **追加のパラメーター** という名前の新しい機能が追加されました。

この新機能を使って、**Windows パッケージ マネージャー** からパッケージをインストール中に渡す、任意の追加パラメーターを指定することが出来ます。この新機能によって、パッケージのインストール中に必要なすべての承認処理を行ない、インストールを正しく実行することが出来ます。



メモ・この変更は IOK-708108 として記録されています

## [前提条件設定] ダイアログ ボックスの追加された新しい ARM および ARM64 オプション

[前提条件設定] ダイアログ ボックスで、[セットアップは特定のプラットフォーム上で実行中] 条件について、プラットフォームに [カスタム] オプションを選択した場合、InstallShield 2022 R2 から [プロセッサ アーキテクチャ] の下に次の 2 つのフィルター オプションが追加されています:

- ARM
- ARM64



メモ・この変更は IOK-753424 として記録されています。

## 新規/アップデートされた Setup.exe コマンドライン パラメーター

アドバンスド UI およびスイート/アドバンスド UI インストールの Setup.exe セットアップ ランチャーには、多くのコマンドライン パラメーターを使用できます。InstallShield 2022 R2 で新しく追加された /update コマンドライン パラメーターは、サイレントモードでスイート/アドバンスド UI インストールをアップデートするときに使用できます。

進行状況バーを表示せず、UI インタラクションなしでインストールをアップデートするには、次を使用します:

```
setup.exe /silent /update
```



メモ・この変更は IOJ-2210989 として記録されています。

## パッシブ モードのインストールをサポートする [ビルド] タブの新しい設定

InstallShield 2022 R2 には [リリース] ビューの [Setup.exe] タブに新しく [最小限の UI を使ってインストール] 設定が追加されていて、スイート/アドバンスド インストールをパッシブ モードで実行するインストールを作成できます。パッシブ モードは、最小限のユーザー インターフェイスを使ってインストールする方法です。

- この設定で [はい] が選択されている場合、スイート/アドバンスド インストールがパッシブ モードで実行します。

- この設定で **【いいえ】** が選択されている場合、スイート/アドバンスド インストールは通常モードで実行します。デフォルトで、この設定は **【いいえ】** になっています。



**メモ**・この変更は IOJ-2211314 として記録されています。

## InstallShield 2022 R1

InstallShield 2022 R1 リリースには、以下の強化機能が含まれています:

- [連鎖 MSI のマイナー アップグレードをサポート](#)
- [MSI の検証](#)

### 連鎖 MSI のマイナー アップグレードをサポート

基本の MSI プロジェクトでは今回より、メイン インストールの以前のバージョンと共に、またはターゲット マシンに既存していて、ターゲット マシン上に連鎖 .msi パッケージの古いバージョンが既にインストール済みであった場合に、インストール中の連鎖 MSI パッケージのマイナー アップグレードをサポートします。



**メモ**・この変更は IOJ-1598900 として記録されています。

### MSI の検証

settings.xml に次のオプションが追加され、MSI のデジタル署名の検証が強化されており、インストーラーの整合性を保つことができます。

```
<DigitalSignature ValidateSetupAndMSISignatures="no"/>
```

このオプションが有効化されている場合、MSI デジタル署名が Setup.exe と一致した場合のみ、Setup.exe のブートストラップ コードで MSI インストールが許可されます。



**メモ**・この変更は IOJ-2224914 として記録されています。

## 重要な情報

InstallShield 2022 リリースに関する次の重要な情報に注意してください:

- [InstallShield の評価](#)
- [InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する](#)
- [InstallShield の複数エディションをインストールする](#)
- [InstallShield の複数バージョンをインストールする](#)

# 同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要

InstallShield の同時接続ライセンスを使用する場合、InstallShield 2022 を使用する前にライセンス サーバー上の FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンをアップデートする必要があります。

InstallShield の以前のバージョンと共に出荷された FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンでは、InstallShield 2022 のライセンスを管理することはできません。これらのライセンスが使用可能な場合でも、InstallShield 2022 は古いバージョンのライセンス サーバーからライセンスをチェックアウトしません。



**メモ**・新しいバージョンの FlexNet Licensing Server ソフトウェアを使って、InstallShield 2022 および InstallShield の以前のリリース の両方を管理することができます。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアの最新版は、[Reverera 製品 & ライセンス センター](#)からダウンロードできます。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアのインストール手順については、「[同時接続ライセンス用のライセンス サーバーを設定する](#)」を参照してください。

## InstallShield の評価

InstallShield のライセンスを購入していなくても、InstallShield をインストールしてアクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに一定の期間使用することができます。アクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに使用すると、InstallShield は一部の機能が制限された評価モードで起動します。詳細については、「[InstallShield 評価版の機能制限について](#)」を参照してください。評価版の制限は、InstallShield がアクティベートされたとき、またはライセンス サーバーに接続して、そのライセンスがチェックアウトされたときに解除されます。



**メモ**・InstallShield 2021 より、Professional Edition の名前が「InstallShield」に変更されましたが、Premier Edition は引き続き「InstallShield Premier」と呼ばれます。

## InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する

次のインストールは、[\[InstallShield のダウンロードおよびライセンスの使用\]](#) に記述されている通り、Reverera 製品 & ライセンス センターからダウンロードが可能です：

- InstallShield
- 再配布可能ファイル（例えば、InstallShield 前提条件および InstallScript オブジェクト）
- Standalone Build、および InstallShield MSI ツールなどのアドオン（使用可能な場合）
- FlexNet Licensing Server ソフトウェア（同時接続ライセンスを購入した場合で、組織のライセンスサーバーを設定する必要がある場合）
- スキン カスタマイズ キット

- InstallScript オブジェクトのテンプレート
- InstallShield サービス パック (使用可能な場合)



メモ・InstallShield 2021 より、*Collaboration Edition (DIM エディター)* が使用できなくなりました。

## InstallShield の複数エディションをインストールする

InstallShield 2022 Premier または InstallShield エディションでは、同時に同じシステム上に 1 つのエディションのみをインストールできます。

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき InstallShield の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

## InstallShield の複数バージョンをインストールする

InstallShield 2022 は、同じマシン上で別のバージョンの InstallShield と共存することができます。

InstallShield 2022 Standalone Build は、同じマシン上で別のバージョンの Standalone Build と共存することができます。ほとんどの場合、InstallShield がインストールされているマシン上に Standalone Build がインストールされることはありません。この両方を同じマシン上にインストールして、オートメーション インターフェイスを使用する場合は、InstallShield ヘルプ ライブラリの「*Standalone Build と InstallShield を同一マシン上にインストールする*」トピックに記載されている、特殊な登録とアンインストールの考慮について参照してください。

## プロジェクトのアップグレードに関するアラート

以下は、InstallShield 2016 および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2022 にアップグレードする際に発生する可能性のある問題についての情報です。また、新しい InstallShield 2022 プロジェクトと InstallShield 2016 および以前のバージョンから InstallShield 2022 にアップグレードされたプロジェクト間の潜在的な動作の違いについてもアラートします。

- [InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報](#)
- [ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更](#)
- [文字列のローカライズに関する考慮](#)

# InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報

InstallShield で変換が行われる前に、例えば .777 (.ism プロジェクトの場合) または .2016 (.issuite プロジェクトの場合) というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップ コピーが作成されます。以前のバージョンの InstallShield でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から .777 または .2016 を取り除いてください。InstallShield 2022 プロジェクトを以前のバージョンの InstallShield で開くことはできませんので、ご注意ください。

InstallShield 2016 以前、InstallShield 12 以前、InstallShield DevStudio、InstallShield Professional 7 以前、および InstallShield Developer 8 以前のバージョンの InstallShield で作成された既存プロジェクトを InstallShield 2022 にアップグレードできます。InstallShield MultiPlatform または InstallShield Universal で作成されたプロジェクトは InstallShield 2022 にアップグレードすることはできませんので、ご注意ください。

## ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更

スイート以外のすべてのプロジェクトの種類では、Windows XP SP3 および Windows Server 2003 SP2 が、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システムに必要な Windows の最小バージョンです。スイート (アドバンスト UI、およびスイート/アドバンスト UI プロジェクト タイプ) の場合、Windows Vista および Windows Server 2008 がターゲット システム上で必要とされる Windows の最小バージョンです。

## 文字列のローカライズに関する考慮

InstallShield 2016 から、ローカライズ済み文字列の検出と受け渡しに関する変更が行われました。たとえば、無効な文字のまわりに角括弧が付けられたローカライズ済み文字列のコンテンツは、ビルド時の警告またはエラーを引き起こします。そのため、インストールの作成作業中に次の新しい警告やエラーが発生する場合があります。

| エラー/警告番号 | メッセージ                                       | トラブルシューティング情報   |
|----------|---|---|
| -7355    | 文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 の検証基準を満たしていません。 | この警告は、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の列の検証基準を満たしていない時に発生します。この警告を解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。       |
| -7354    | 文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 では使用できません。      | このエラーは、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の名前付き列に有効な値が含まれていない時に発生します。このエラーを解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。 |

# バグ修正

このセクションには、InstallShield の以下のバージョンで修正された顧客の問題が掲載されています:

- [InstallShield 2022 R2](#)
- [InstallShield 2022 R1](#)

## InstallShield 2022 R2

InstallShield 2022 R2 では、次の問題が解決されています。

| 問題番号        | 問題の概要  |
|-------------|--|
| IOK-932064  | スイート インストールで、ステージング中にユーザーがインストールをキャンセルすると、ステージングされた各 MSI に「操作が中止されました」エラー メッセージ ボックスが表示されました。この問題は解決されました。   |
| IOK-928295  | _isres_0x0411.dll ファイルがデジタル署名されなかったために、Windows 11 上でスマート アプリ コントロールが InstallShield DLL をブロックしました。この問題は解決されました。   |
| IOK-884669  | プロジェクトが IS 2021 R2 SAB-SUB-NL ライセンスを使ってビルドされた場合、致命的なエラー「ISDEV : 致命的なエラー -7159: 製品ライセンスの期限が切れているか、まだ初期化されていません。」を表示してビルドが失敗しました。この問題は解決されました。                                   |
| IOK-751637  | セキュリティ スキャン レポートに、ARPPRODUCTICON.exe に対する 2 つのセキュリティ機能 (DEP および ASLR) についての警告が含まれていました。この問題は解決されました。   |
| IOK-708115  | HTTPS_Proxy を Windows レジストリに追加すると、いくつかの問題が発生したため、InstallShield はデフォルト Windows プロキシからプロキシ設定を取得します。この問題は解決されました。   |
| IOK-708108  | クリーンマシン上で Windows パッケージ マネージャー (WPM) prq がインストールできず、ハングする問題がありました。この問題は解決されました。  |
| IOJ-2251298 | 以前にインストールされたバージョンからの一時ファイルが一時フォルダーに残されたために、アップグレードされたバージョンのアンインストール中に別のバージョンが既にインストールされていることを通知するメッセージが表示される問題がありました。この問題は解決されました。   |
| IOJ-2248815 | InstallShield の同時接続サーバーを借用ライセンスを使ってオフラインでアップグレードする方法についての説明が明確ではありませんでした。InstallShield アクティベーション ドキュメントに新しいトピック「借用したライセンスを使って InstallShield 同時接続サーバーをオフラインでアップグレードする」が追加されました。 |

| 問題番号        | 問題の概要  |
|-------------|--|
| IOJ-2243278 | リリース ウィザードで前提条件の設定が表示されませんでした。この問題は解決されました。  |
| IOJ-1990284 | InstallScript カスタム アクションを基本の MSI または InstallScript MSI プロジェクトに追加すると、定義済みフォルダーにいくつかのファイルが抽出されました。その結果、DLL がハイジャックされる可能性につながりました。この問題は解決されました。 |
| IOJ-1615901 | 存在しないディレクトリで応答ファイルを作成中に、インストールがハングしました。この問題は解決されました。   |
| IOK-930102  | Zlib は最新バージョン規則 (v1.2.13) にアップグレードされました。   |

## InstallShield 2022 R1

InstallShield 2022 R1 では、次の問題が解決されています。

| 問題番号        | 問題の概要  |
|-------------|--|
| IOJ-2260374 | 基本の MSI プロジェクトでクイックパッチ プロジェクトがビルドされた時、製品名、バージョン、および著作権情報が Update.exe のプロパティ詳細に正しく表示されませんでした。この問題は解決されました。                        |
| IOJ-2255857 | InstallShield で使用されている Zlib ライブラリ (v1.2.11) で脆弱性がレポートされました。InstallShield ランタイムに影響はありませんが、Zlib が最新バージョン (v1.2.12) にアップグレードされています。 |
| IOJ-2255430 | オートメーション レイヤーがダイナミックにリンクされているファイルの詳細を取り出す際にエラーが発生しました。この問題は解決されました。  |
| IOJ-2245065 | コマンドライン ビルドからプロジェクトをビルドした際、ランタイム エラー 1324 が発生してインストールが中断しました。この問題は解決されました。   |
| IOJ-2242528 | MSI インストーラーでは、ユーザーが昇格された権限を使って管理者コマンド プロンプトを開くことができます。この問題は解決されました。  |
| IOJ-2238399 | InstallScript プロジェクトの [XML ファイルの変更] ビューで、ランタイム中に既存する XML 要素の更新に失敗しました。この問題は解決されました。  |
| IOJ-2198725 | InstallScript MSI プロジェクトで、アンインストール ダイアログが「アンインストールの準備中」ではなく「インストールの準備中」と表示されました。この問題は解決されました。                                    |
| IOJ-2169906 | Suite プロジェクトのパッケージの設定で、InstallShield 2020 R3 リリースに移行した後、リリース フラグが非表示となりました。この問題は解決されました。   |

| 問題番号       | 問題の概要  |
|------------|--|
| IOK-705771 | 基本の MSI プロジェクトの InstallWelcome ダイアログに追加されたチェックボックス コントロールは、実行時にユーザーがチェックボックス上にマウスを重ねるか、ダイアログ上でクリックしない限り、表示されませんでした。この問題は解決されました。 |
| IOK-750483 | 選択された EXE パッケージの名前に空白スペースが含まれていた場合、ダイナミック スキャン中にコンポーネントが作成されませんでした。この問題は解決されました。   |

## システム要件

このセクションでは、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システム (ランタイム環境) の要件、ならびに InstallShield を実行するために必要なシステム (オーサリング環境) の要件が説明されています。

## InstallShield を実行するシステムの要件

InstallShield は、これらのオペレーティング システムの最も新しいパッチおよびサービス パックが適用されている最新版で実行します。

| 項目      | 説明                                  |
|---------|-------------------------------------|
| プロセッサ   | Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨) |
| RAM     | 256 MB の RAM (512 MB 推奨)            |
| ハードディスク | 750 MB 空き領域                         |
| ディスプレイ  | 1024 x 768 (XGA) 以上の解像度             |

| 項目   | 説明  |
|--|---|
| オペレーティング システム                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2008</li> <li>Windows 7</li> <li>Windows Server 2008 R2</li> <li>Windows 8</li> <li>Windows Server 2012</li> <li>Windows 8.1</li> <li>Windows Server 2012 R2</li> <li>Windows 10</li> <li>Windows Server 2016</li> <li>Windows Server 2019</li> <li>Windows 11</li> <li>Windows Server 2022</li> </ul>  |
| 権限   | システムの管理者権限  |
| マウス  | Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス  |
| InstallShield と Visual Studio との統合 (オプション) | <p>Microsoft Visual Studio の以下のバージョンを InstallShield Premier Edition または InstallShield Edition に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Visual Studio 2008</li> <li>Visual Studio 2010</li> <li>Visual Studio 2012</li> <li>Visual Studio 2013</li> <li>Visual Studio 2015</li> <li>Visual Studio 2017</li> <li>Visual Studio 2019</li> <li>Visual Studio 2022</li> </ul> <p>Visual Studio のこれらのバージョンの以下のエディションは、InstallShield Premier または InstallShield Edition に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Professional</li> <li>Premium</li> <li>Ultimate</li> <li>Enterprise</li> </ul> |

# ターゲット システムの要件

スイート (アドバンスド UI、およびスイート/アドバンスド UI プロジェクト タイプ) 以外のすべてのプロジェクトの種類では、Windows XP SP3 および Windows Server 2003 SP2 が、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システムに必要な Windows の最小バージョンです。スイートの場合、Windows Vista および Windows Server 2008 がターゲット システム上で必要とされる Windows の最小バージョンです。

ターゲット システムは、次のオペレーティング システムの最小要件を満たさなくてはなりません:

- Windows Vista
- Windows Server 2008
- Windows 7
- Windows Server 2008 R2
- Windows 8
- Windows Server 2012
- Windows 8.1
- Windows Server 2012 R2
- Windows 10
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows 11
- Windows Server 2022

ターゲット システムで、SSE2 インストラクション セットがサポートされていることが必須です。

## 既知の問題

InstallShield 2022 の既知の問題はありません。

# 法的情報

## 著作権情報

Copyright © 2022 Flexera Software. All Rights Reserved.

この出版物には、Flexera Software およびそのライセンサーによって所有されている機密情報、創造的な製作物が含まれています。本出版物の一部または全部を、Flexera Software からの事前の書面による明示的許可なしに、使用、複製、出版、配布、表示、改変または転載することはいかなる形態または手段を問わず厳重に禁止いたします。Flexera Software によって書面で明示されている場合を除き、この出版物の所有は、禁反言、黙示などによっても、Flexera Software が所有するいかなる知的財産権の下、ライセンスまたは権利を一切付与するものではありません。

本テクノロジーおよびそれに関する情報のすべての複製は Flexera Software より許可されている場合に限り、著作権および所有権に関する通知を完全な形で表示しなければなりません。

## 知的財産

Flexera Software が所有する商標および特許の一覧は、<https://www.revenera.com/legal/intellectual-property.html> を参照してください。フレクセラ・ソフトウェア製品、製品ドキュメント、およびマーケティング資料で言及されているその他すべてのブランドおよび製品名は、各社の商標または登録商標です。

## (米国内向け) 制限付権利に関する表示

本ソフトウェアは商業用コンピュータソフトウェアです。本ソフトウェアのユーザーまたはライセンス許可対象者が米国政府の代理、部署、その他の関連機関の場合、ソフトウェアまたは技術データおよびマニュアルを含むすべての関連文書の使用、複写、複製、開示、変更、公開、または譲渡に関して、ライセンス契約または本契約の条項ならびに民生機関については連邦調達規則第 12.212 条または軍事機関については国防連邦調達規則補遺第 227.7202 条による制限が適用されます。本ソフトウェアは完全に自費で開発されたものです。その他一切の使用は禁止されています。